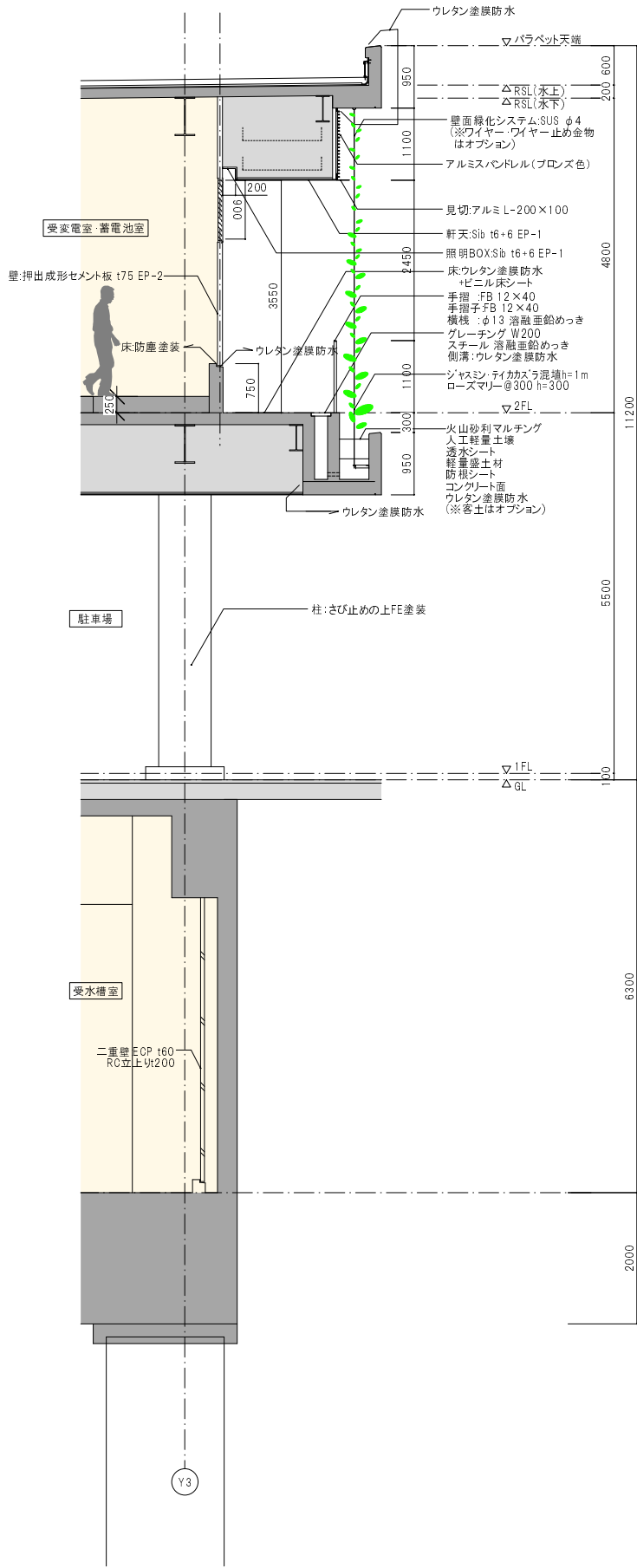
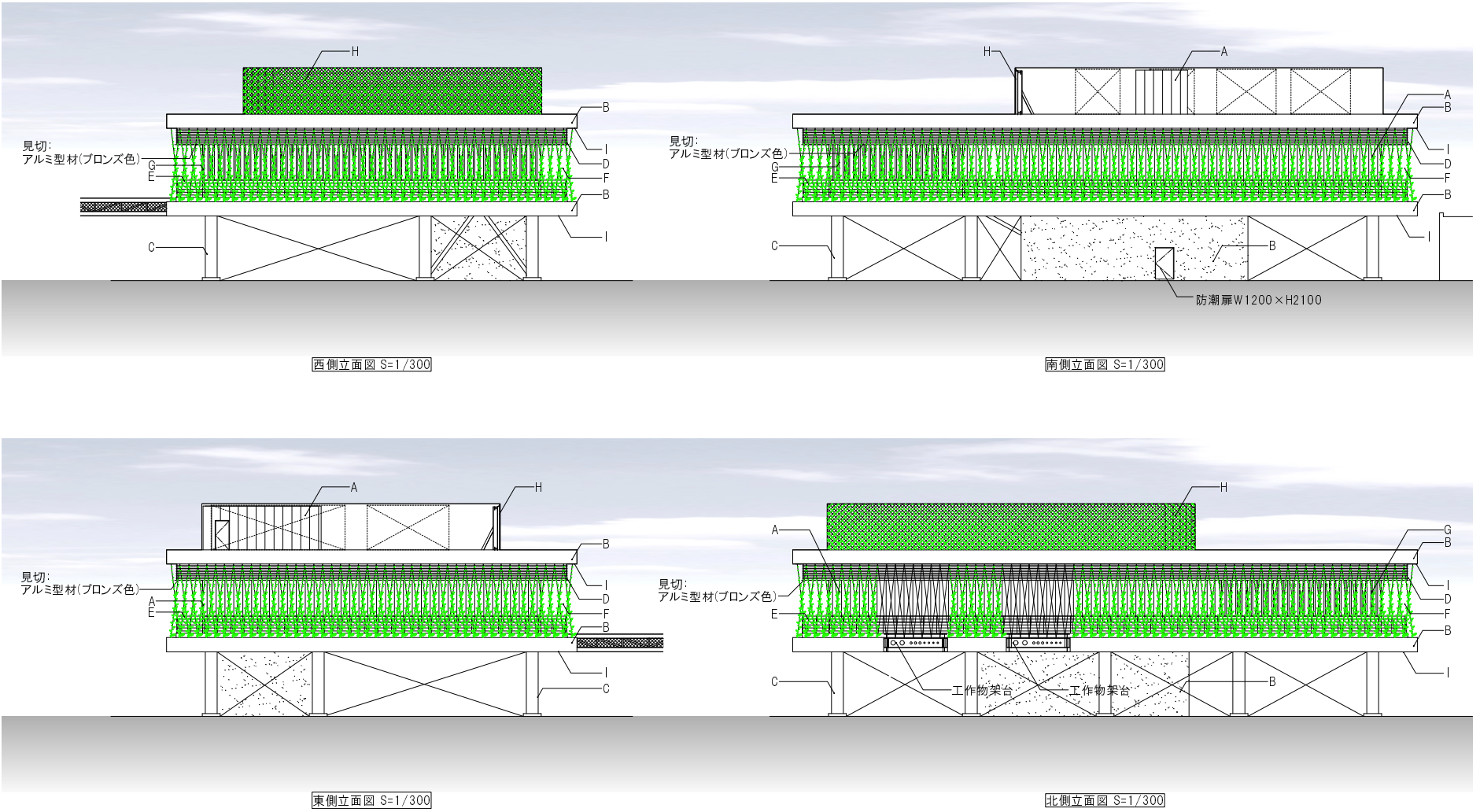


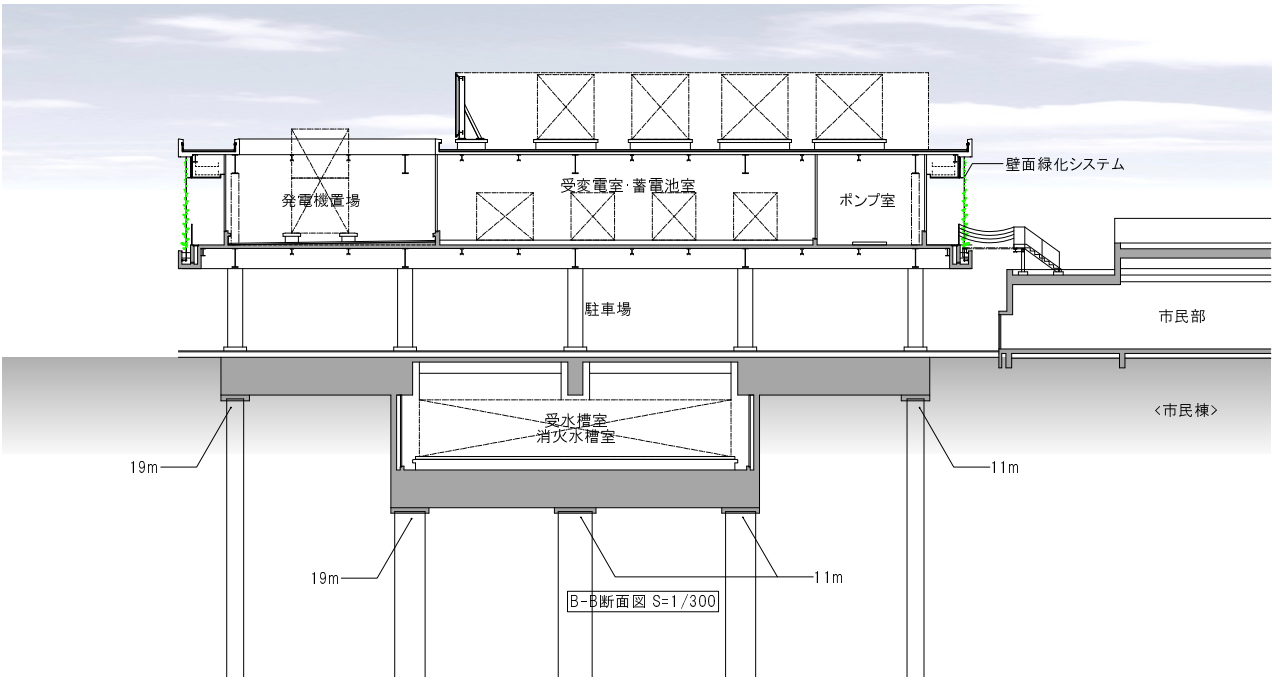
別棟 断面詳細図 S=1/100



別棟 立面図 S=1/400

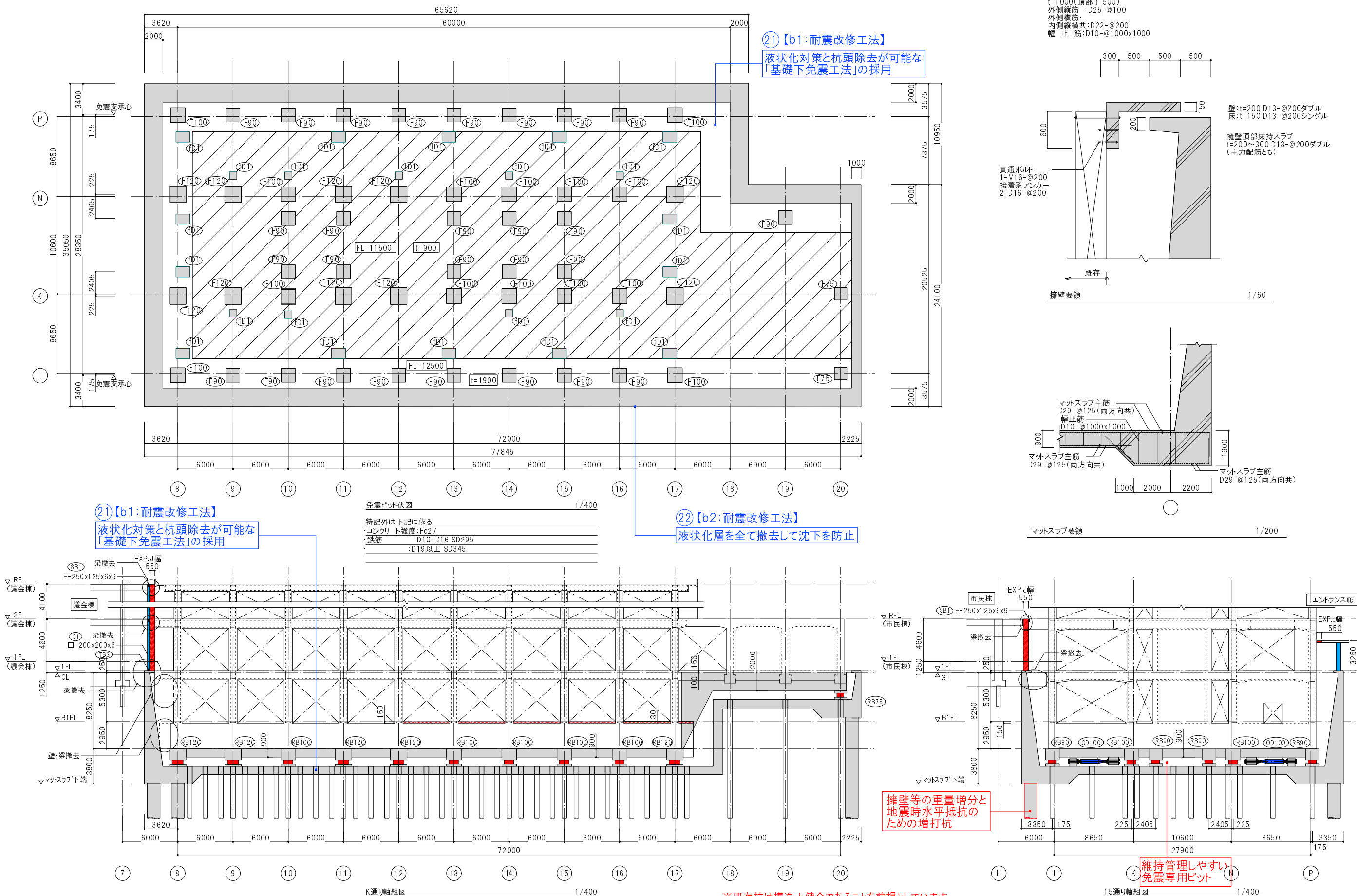


別棟 断面図 S=1/400



凡例	
A	押出成形セメント板t60+フッ素樹脂塗装(工場塗装)
B	RC打放し+ウレタン塗膜防水(白)
C	さび止め+FE塗装
D	アルミスバトレル(ブロンズ色)
E	手摺・手摺子:St FB 12x40 @90 横桟:φ13 溶融亜鉛めっき
F	SUSワイヤーφ4(壁面緑化システム) ※客土・ワイヤー・ワイヤー止め金物はオプション
G	穴有りファインフロアt60 W250 @350溶融亜鉛めっき
H	穴無しファインフロアt60 W250 溶融亜鉛めっき
I	軒天Sib t6+6 EP-1(白)
オプション案	
凡例	
B	RC打放し+ウレタン塗膜防水(茶) ※オプション
D	アルミスバトレル(茶) ※オプション
I	地産木材 ※オプション

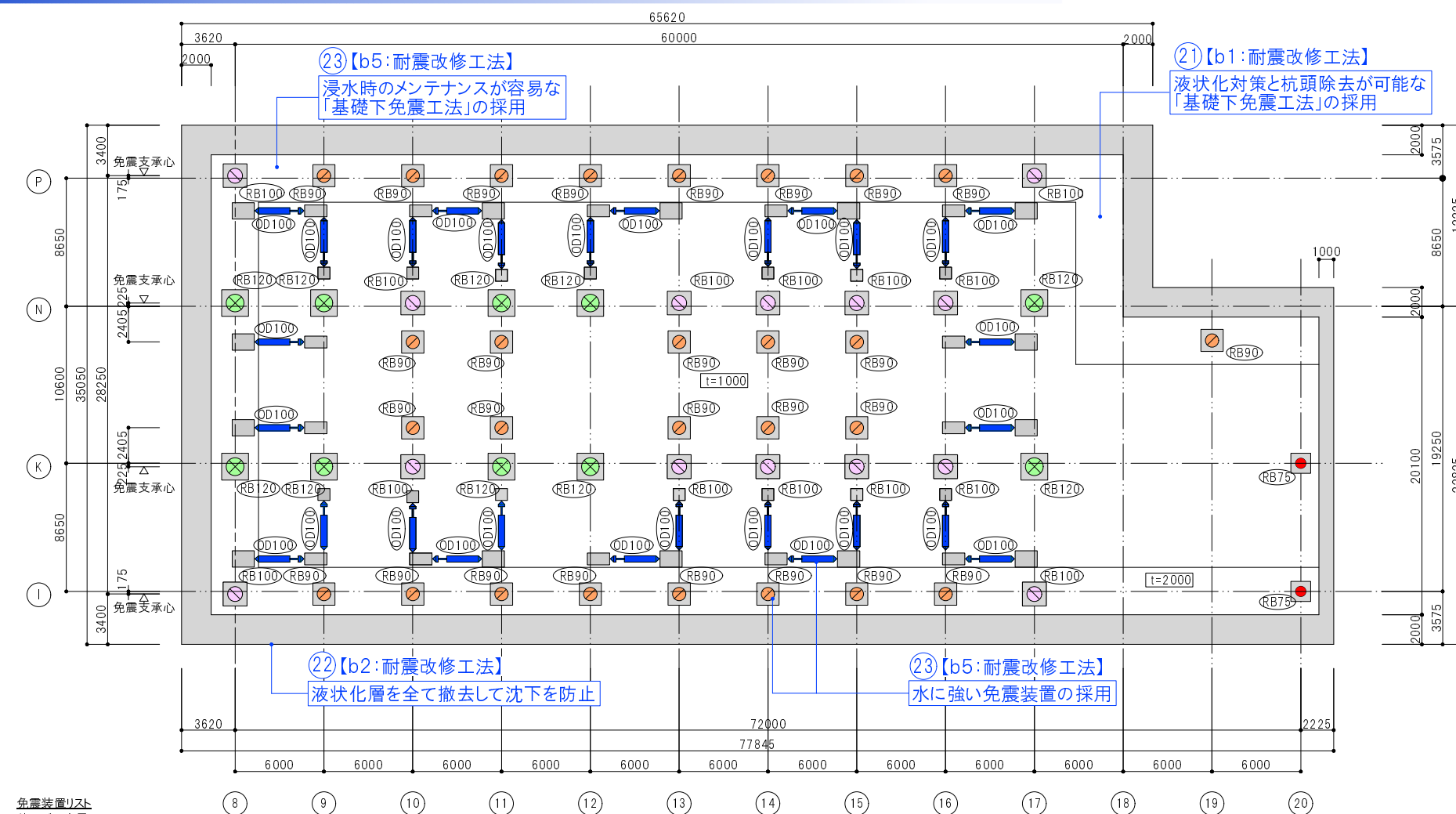
本棟 免震ピット伏図



※本提案は、計画段階のものであり、基本設計・実施設計を進める中で、計画や数値等の変更の可能性があります。

Copyright (C) 2016 大成建設株式会社 著作権者の許可なく複製、転載、第三者開示等の行為を禁止する。

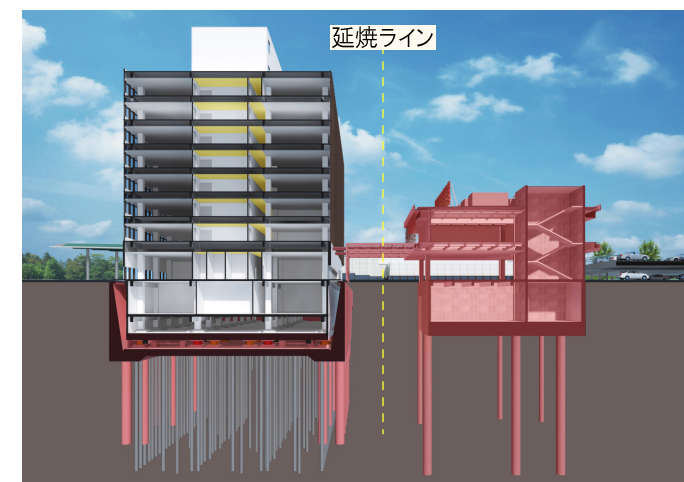
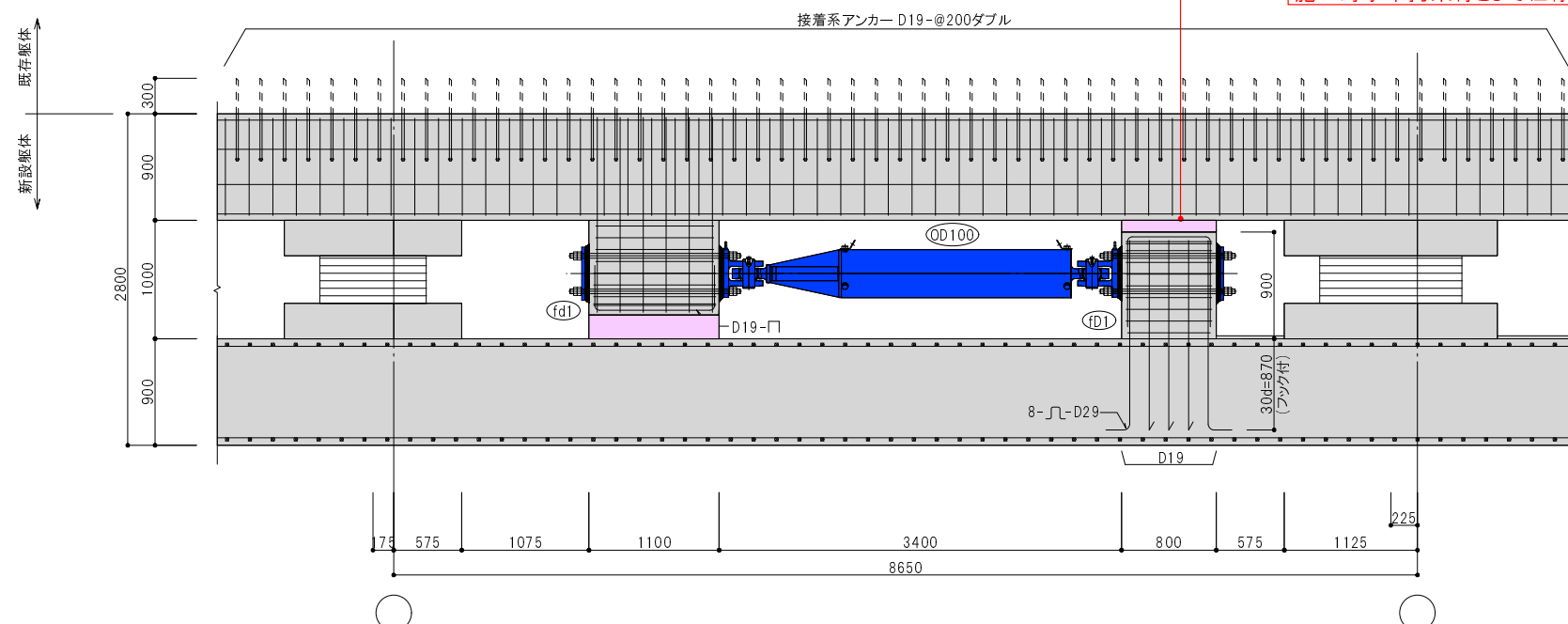
本棟 基礎伏図



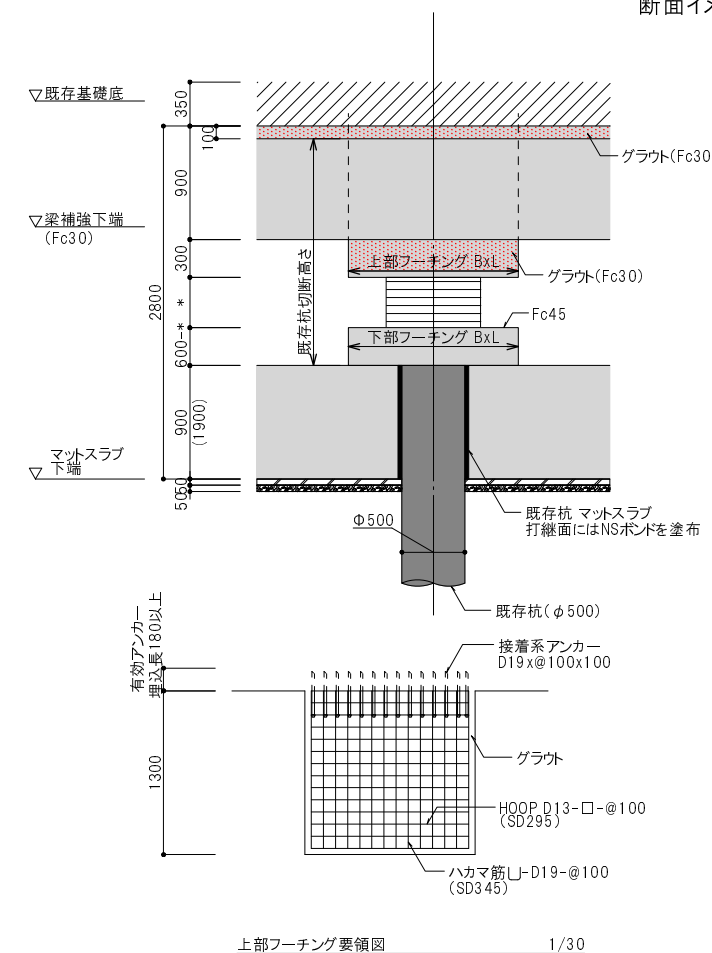
先着装置リスト				(8)	(9)
積層ゴム支承リスト				昭和電線大臣認定品相当	
記号	符号	支承受径	台数	仕様	
	RB 90	Φ 900	27	G=0.29N/mm ² , S2=5.1	
	RB100	Φ 1000	14	G=0.29N/mm ² , S2=5.1	
	RB120	Φ 1200	10	G=0.29N/mm ² , S2=5.1	
	RB 75	Φ 750	2	G=0.29N/mm ² , S2=3.8	

オイルダンパーリスト		カヤバ大臣認定品相当	
記号	符号	最大抵抗力	台数
	OD100	1000kN	28

免震支承・オイルダンパー配置図 1/200



断面イメージ図

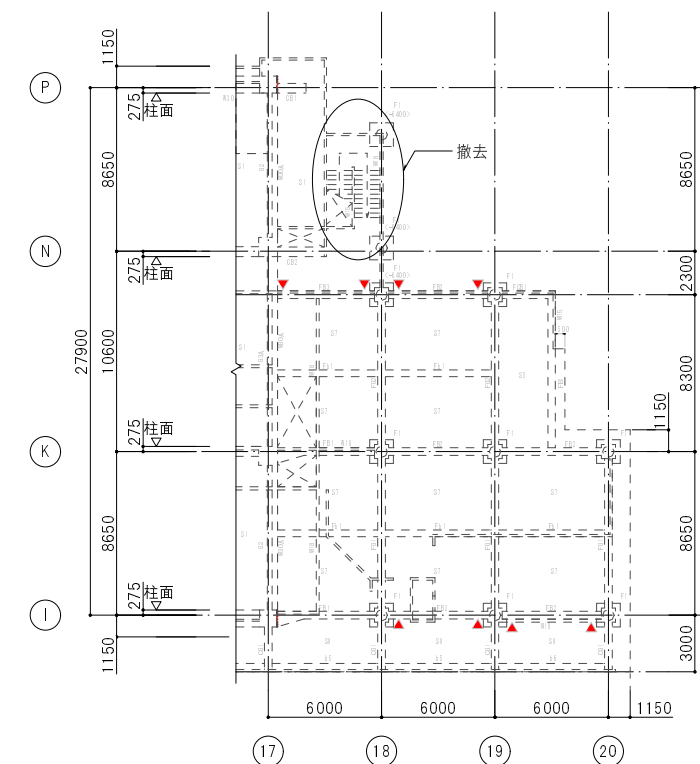
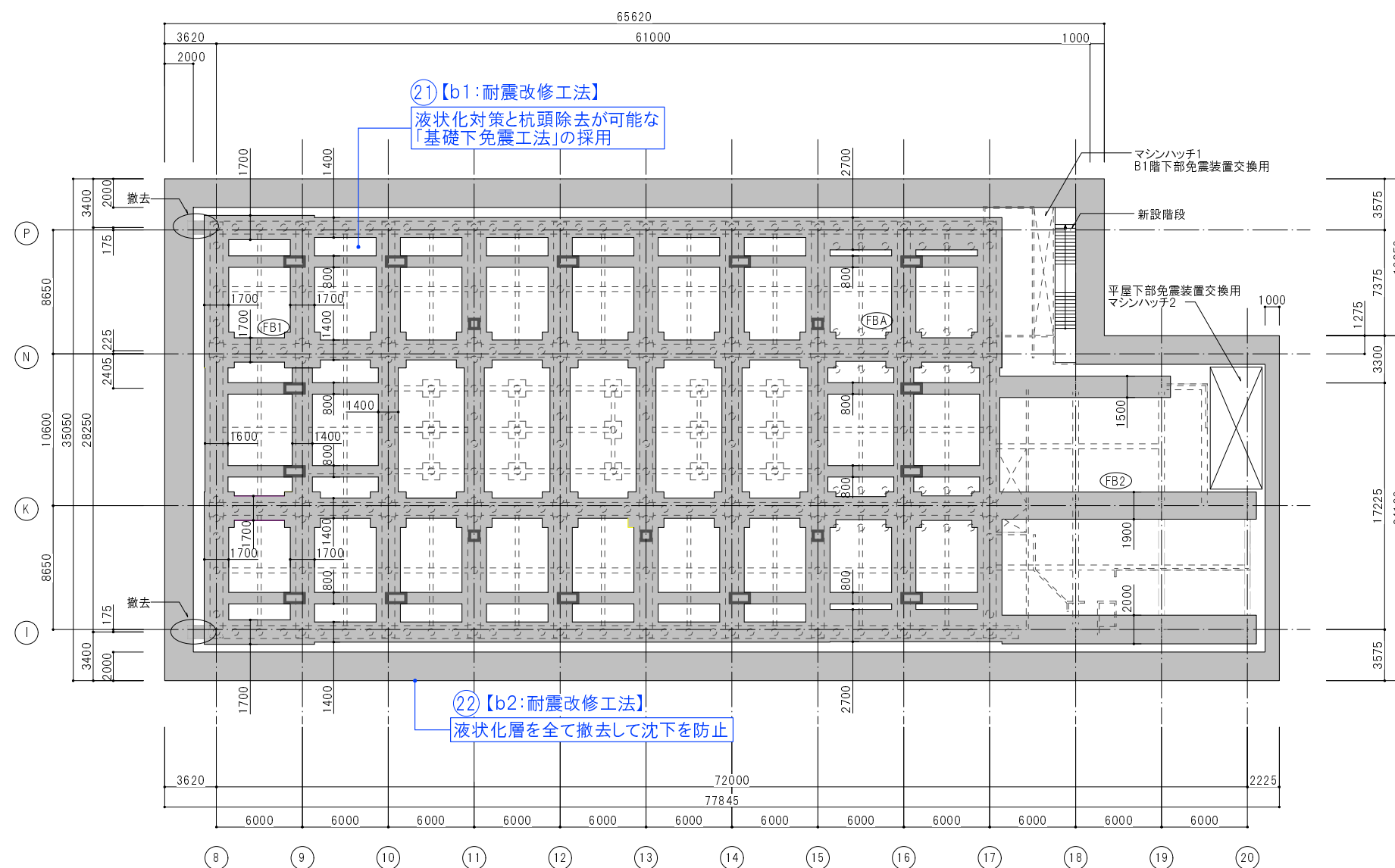


上部フーチング要領図 1/30

上部フーチングリスト(グラウト)					
記号	支承符号	支承径	支承高さ*	フーチング BxLx(1300)	ハカマ筋
F 90	RB 90	Φ 900	399.3	1500x1500	⌈-D19-@100
F100	RB100	Φ1000	417.5	1600x1600	⌈-D19-@100
F120	RB120	Φ1200	456.5	1800x1800	⌈-D19-@100
F 75	RB 75	Φ 750	436.5	1350x1350	⌈-D19-@100

下部フーチングリスト(Fe45) 主筋:SD345、帯筋:SD295			
記号	フーチング BxLx(700~*)	ハカマ筋	帯筋
F 90	1500x1500	□-D19-@100	D13-  -@100
F100	1600x1600	□-D19-@100	D13-  -@100
F120	1800x1800	□-D19-@100	D13-  -@100
F 75	1350x1350	□-D19-@100	D13-  -@100

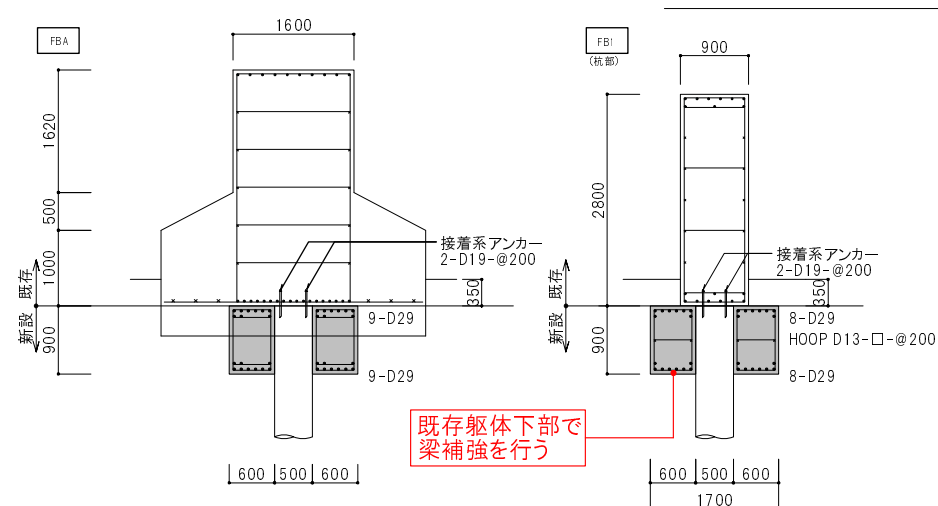
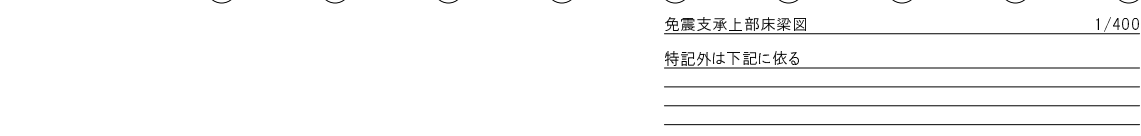
本棟 B1階梁下部補強配置図



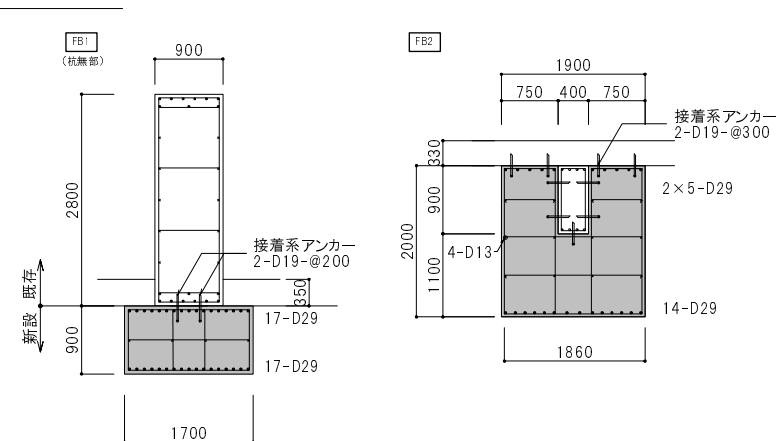
※: ▲ は、内壁及び外壁に構造スリットを設ける
(8ヶ所)

B1階柱壁1階床梁伏図 1/200

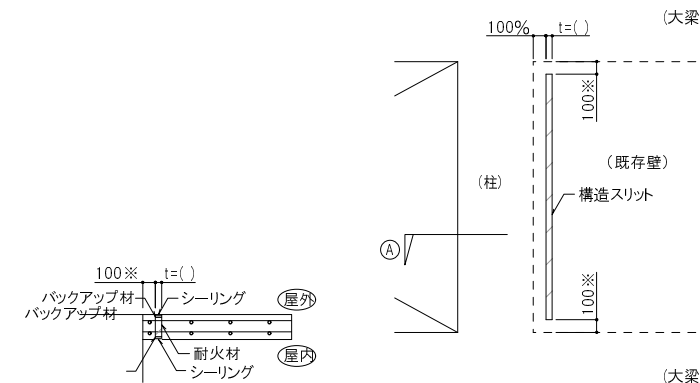
特記外は下記に依る



基礎梁補強例(高層部) 1/100



基礎梁補強例(低層部) 1/100

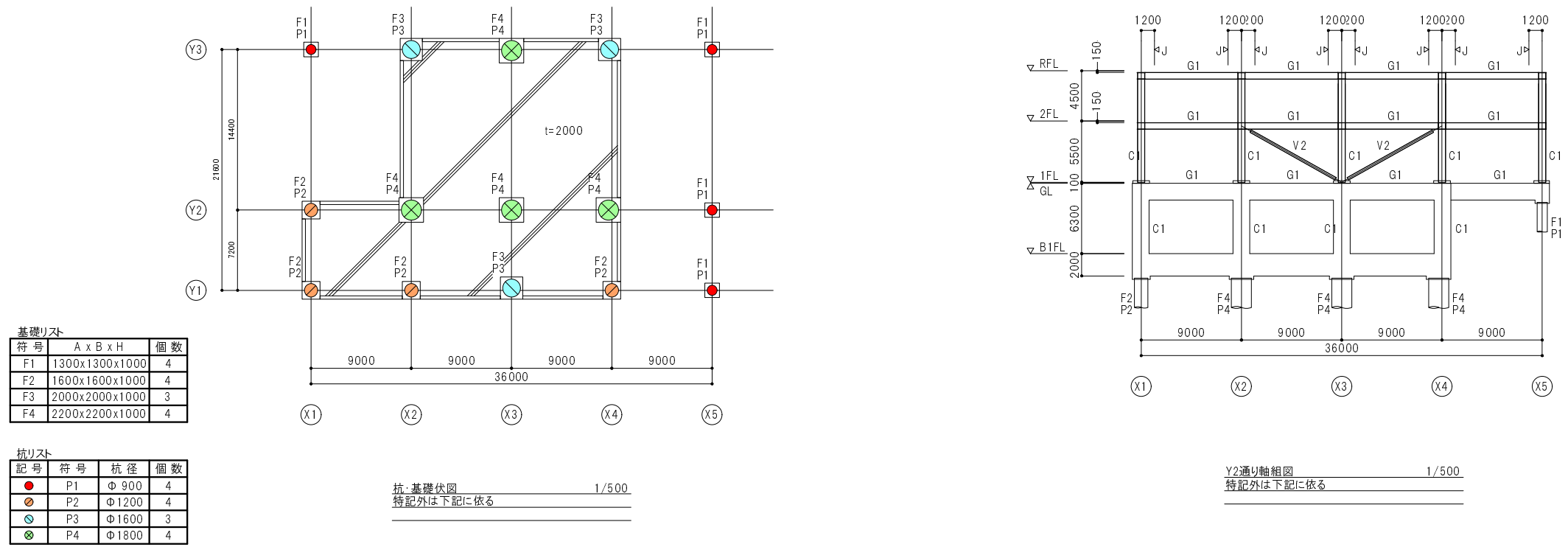
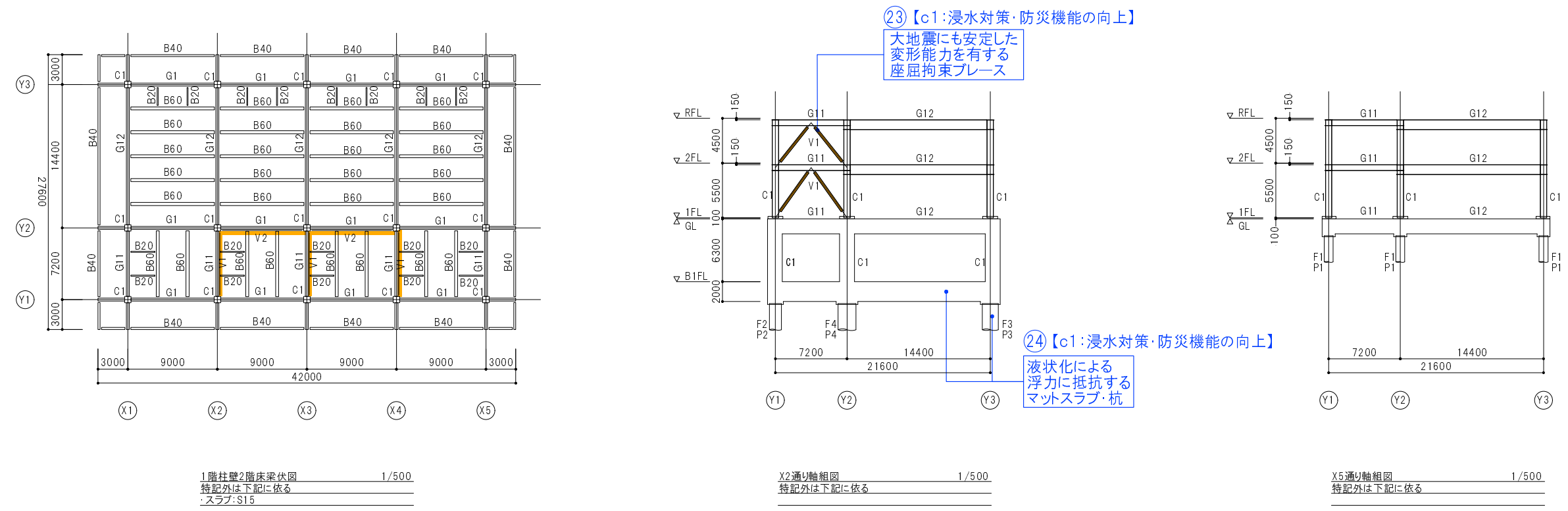


④ 矢視図

構造スリット要領区

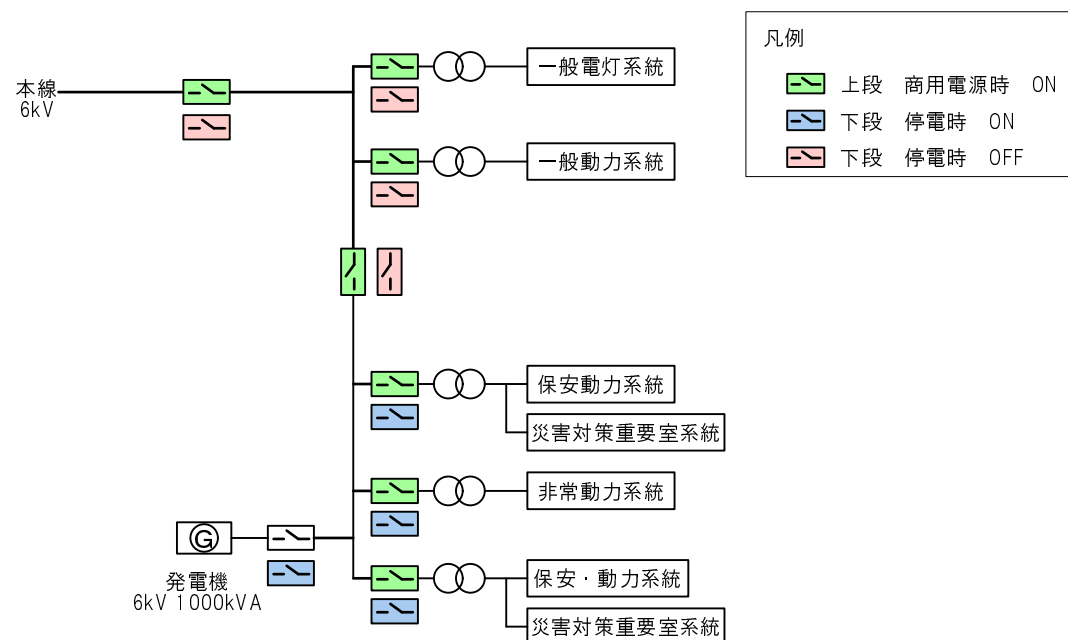
※スリット周囲の寸法は設計者と協議による。

別棟 杭・基礎伏図・床伏図・軸組図

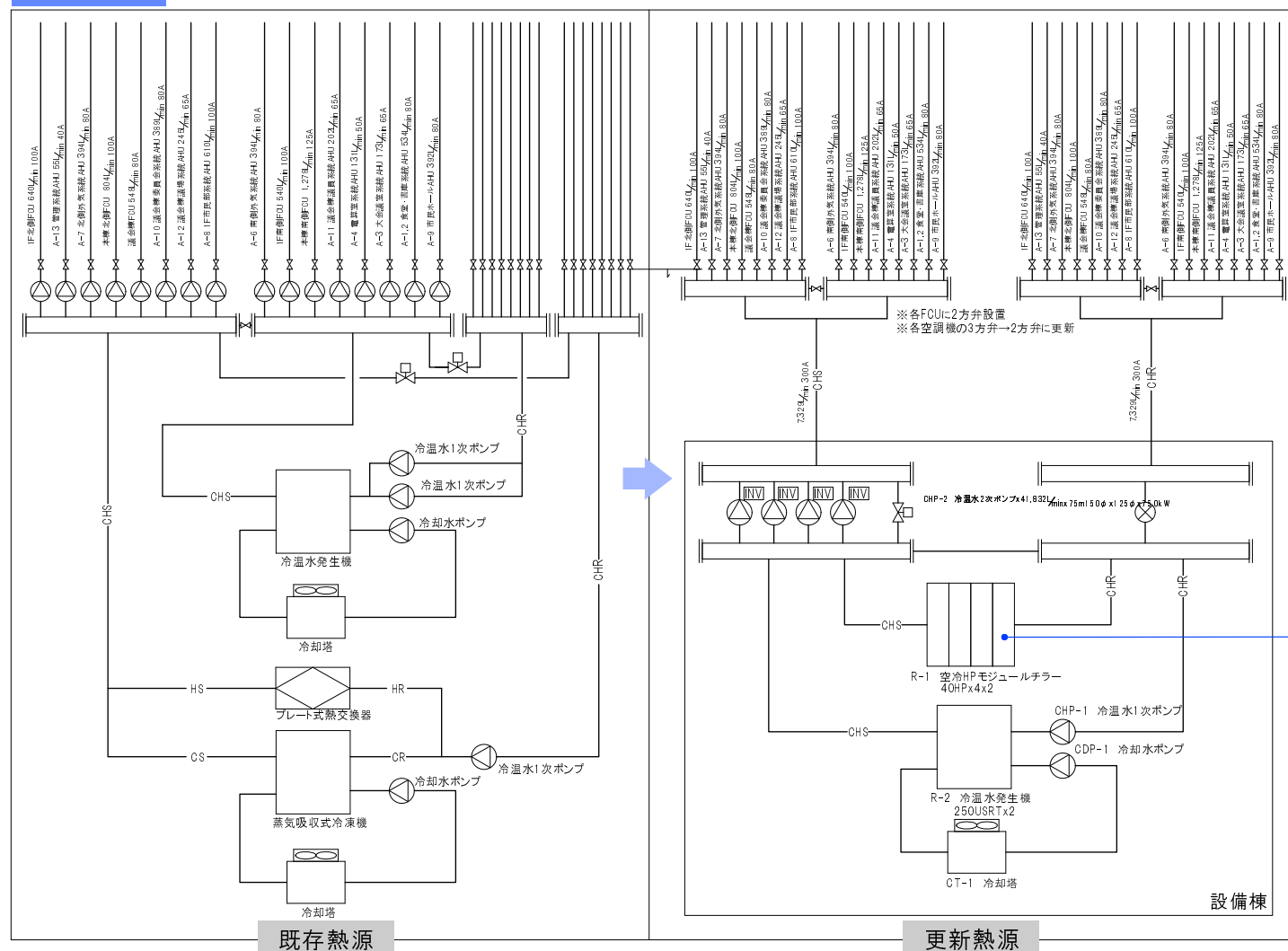


系統図

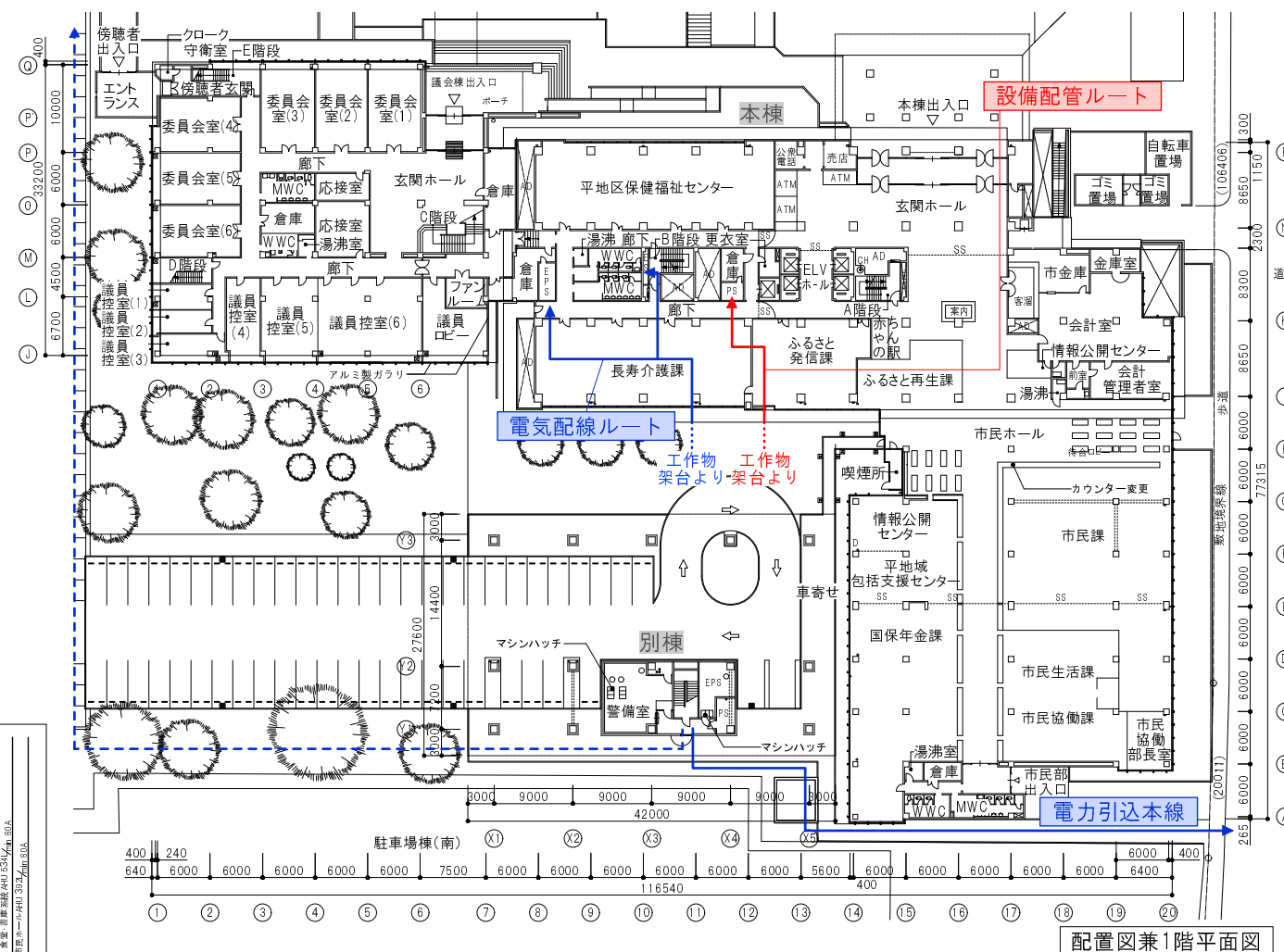
電気系統図



熱源系統図



B1・1階平面図



②⑤【d3:老朽化改修による省エネ性】
高効率ヒートポンプチャラーの採用により
ランニングコスト30%削減

凡例

→ 電力引込

重要室の照明の1/2
を発電機回路に改修
空調の2重化

消火水槽50m³

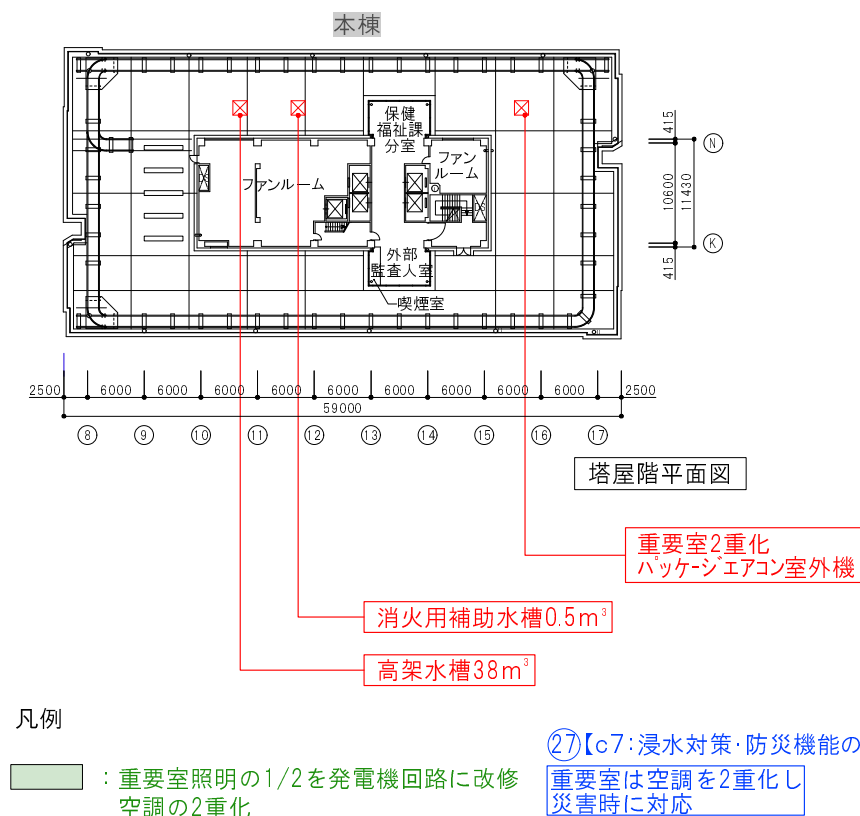
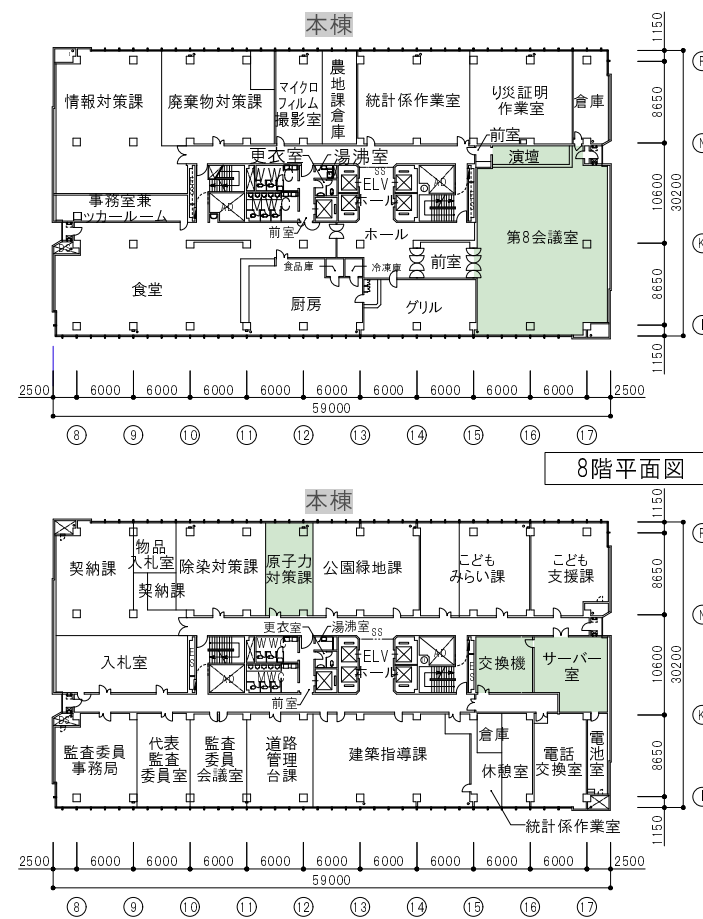
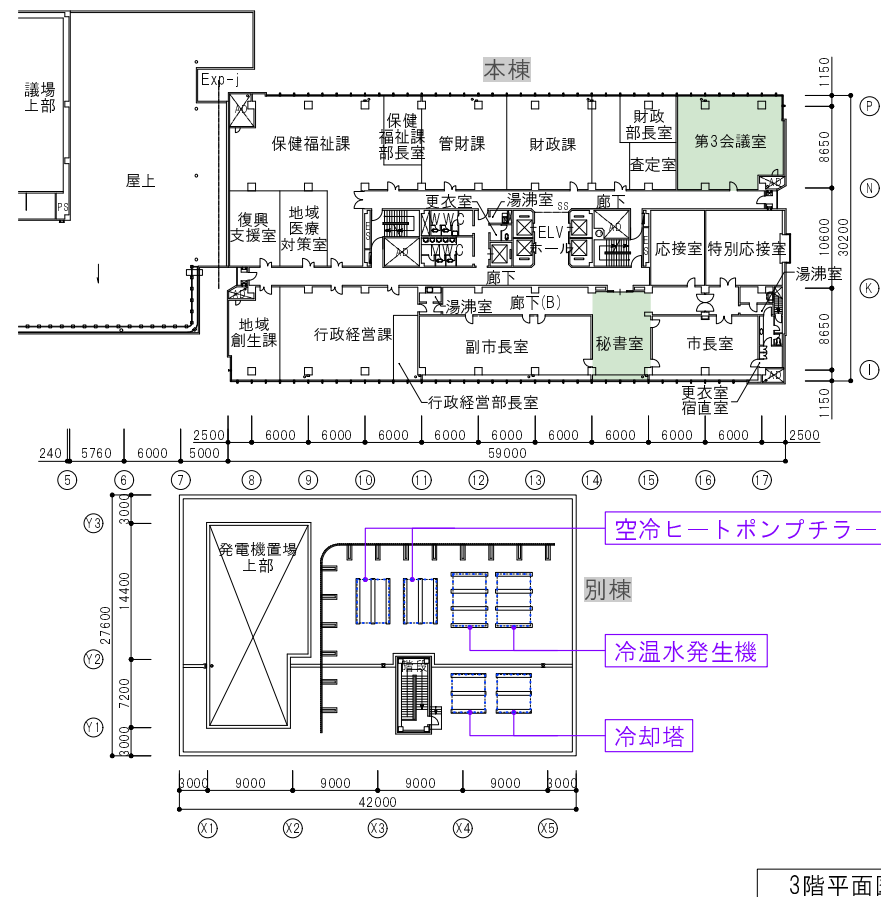
オイルタンク13000L
+ガス消火設備

受水槽100m³

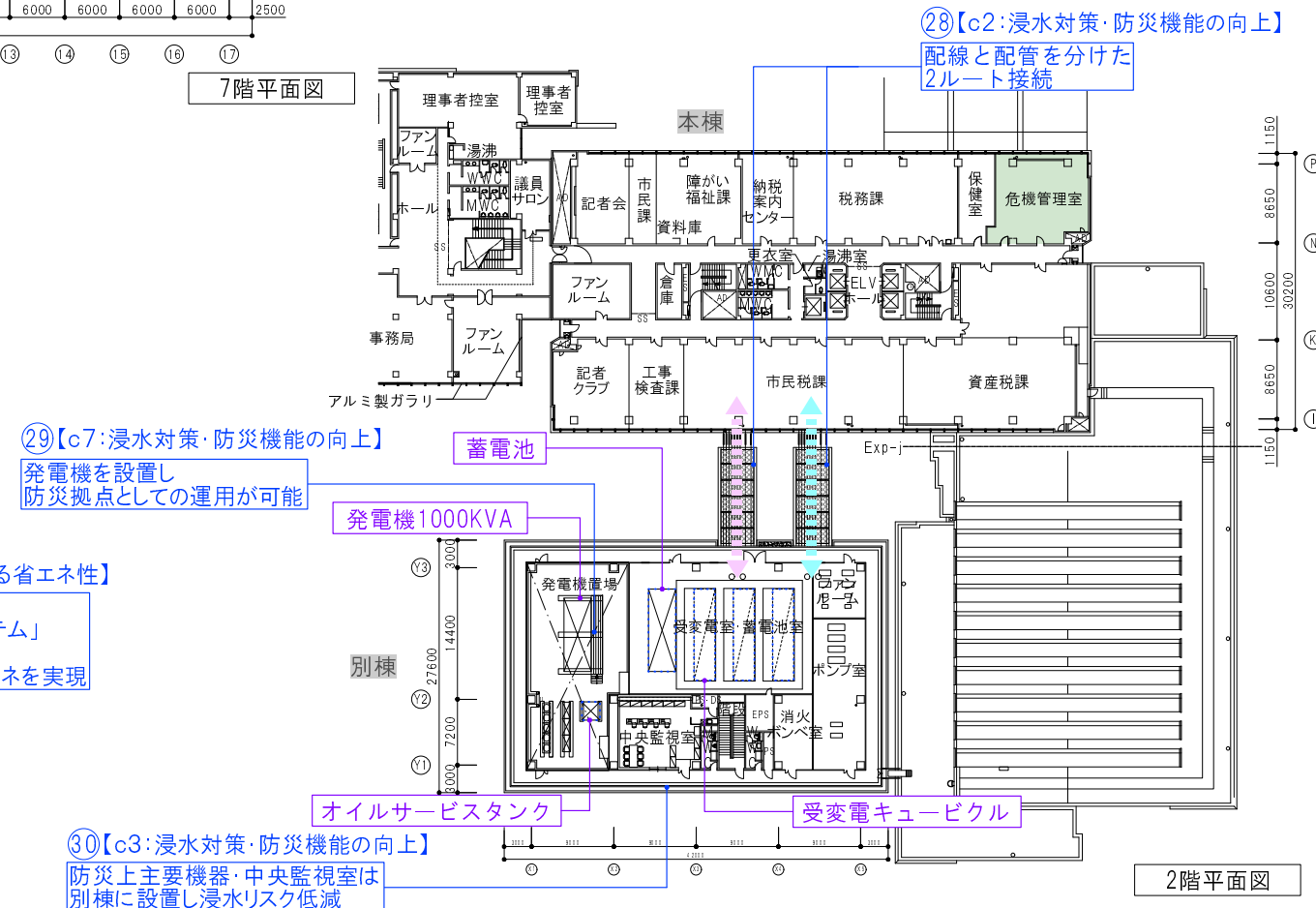
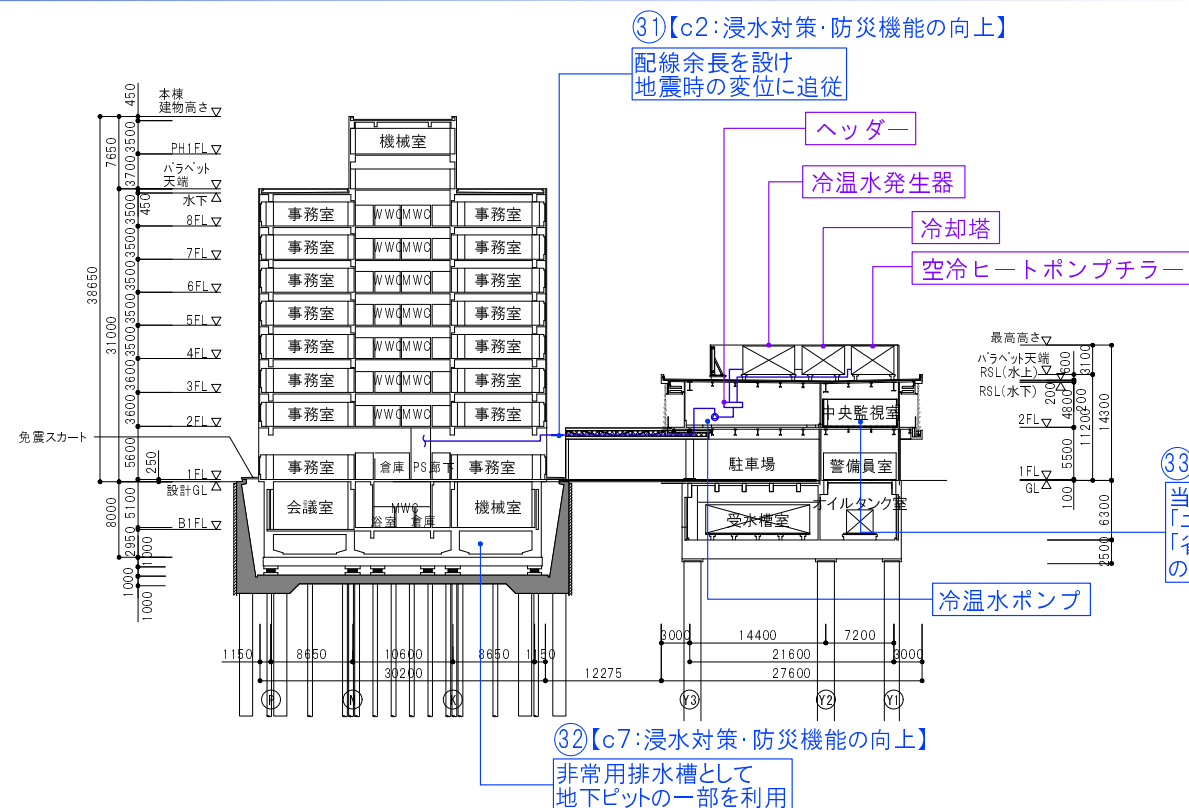
②⑥【c3:浸水対策・防災機能の向上】
防災上主要機器は
別棟に設置し浸水リスク低減

地下1階平面図

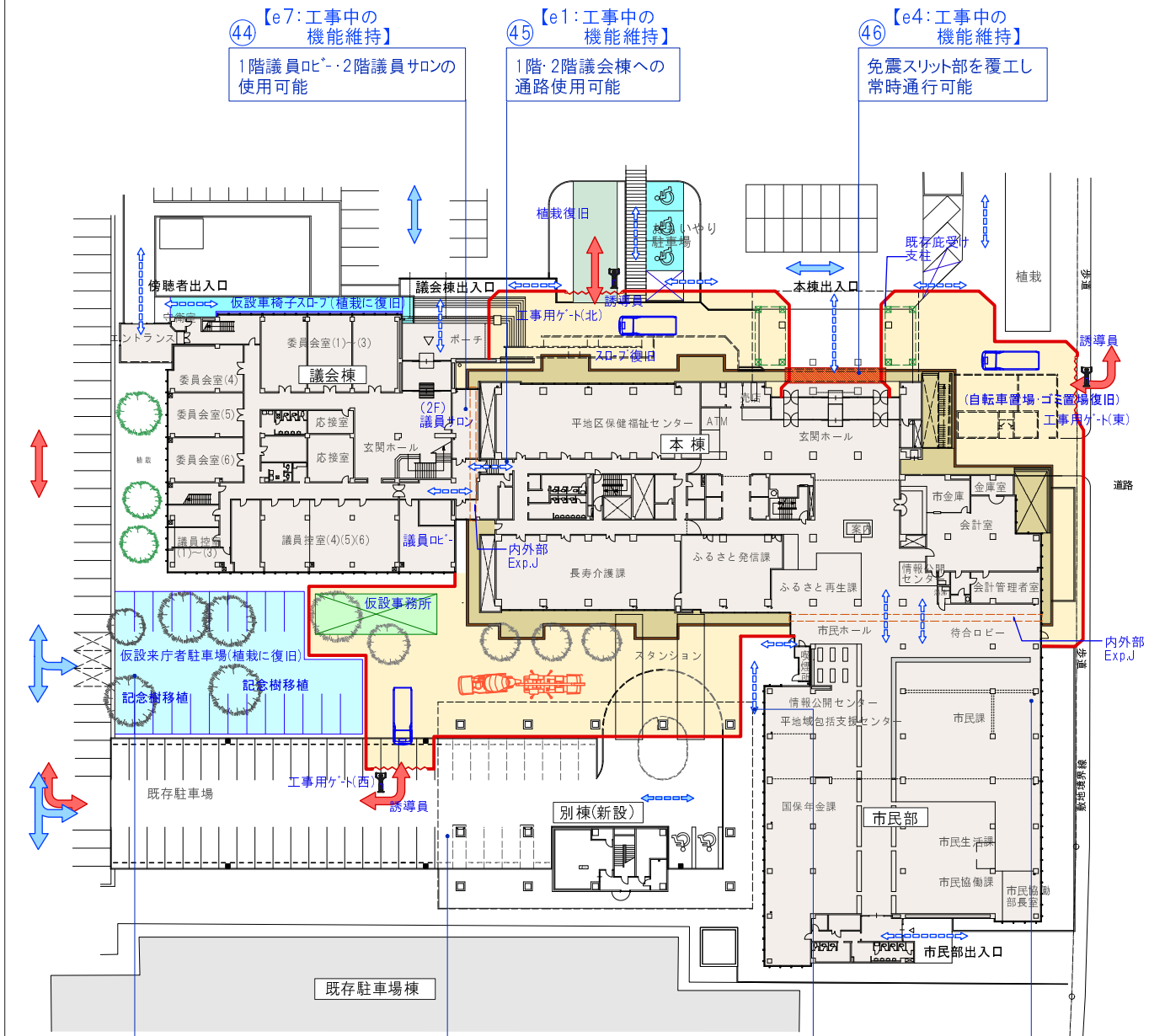
2・3・7・8・塔屋階平面図



断面図



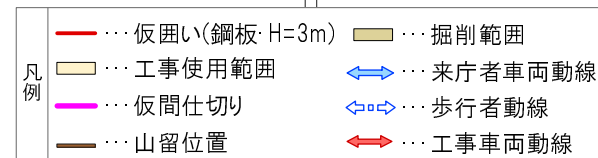
工事後半の仮設計画図(1階・外部)
[平成30年8月～平成31年8月]



④【e2:工事中の機能維持】

工事で使用する既存駐車場の代替として

植栽部に来庁者用仮駐車場を設置



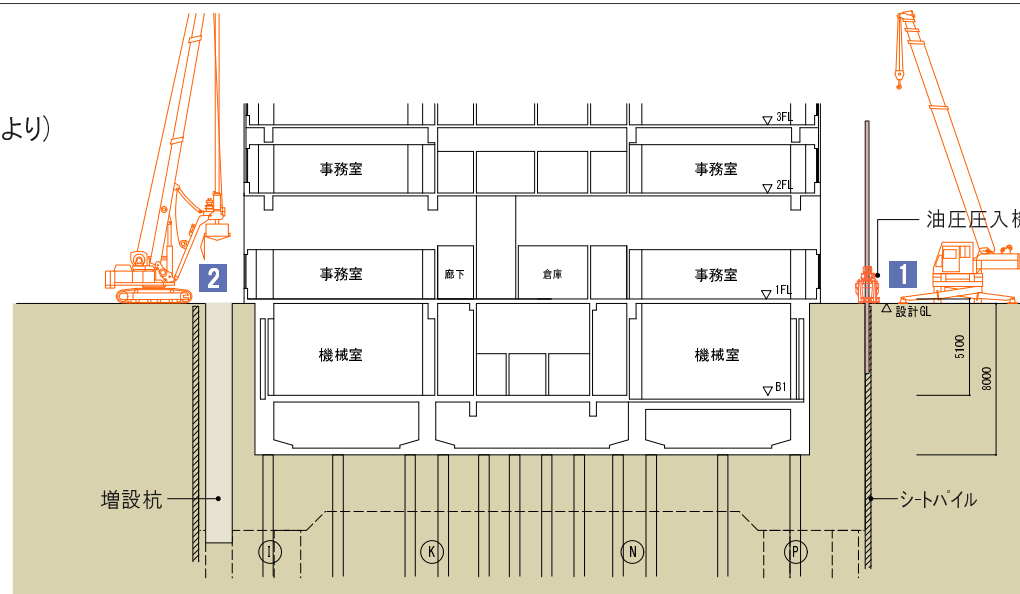
施工手順図 S=1/500

STEP
1 山留壁構築
増設杭構築(GLより)

0 山留施工前に、埋設物調査及び配管盛替えを行い、既存インフラの損傷を防ぎます。

1 シートパイル工事には、低騒音・無振動の圧入工法を採用します。

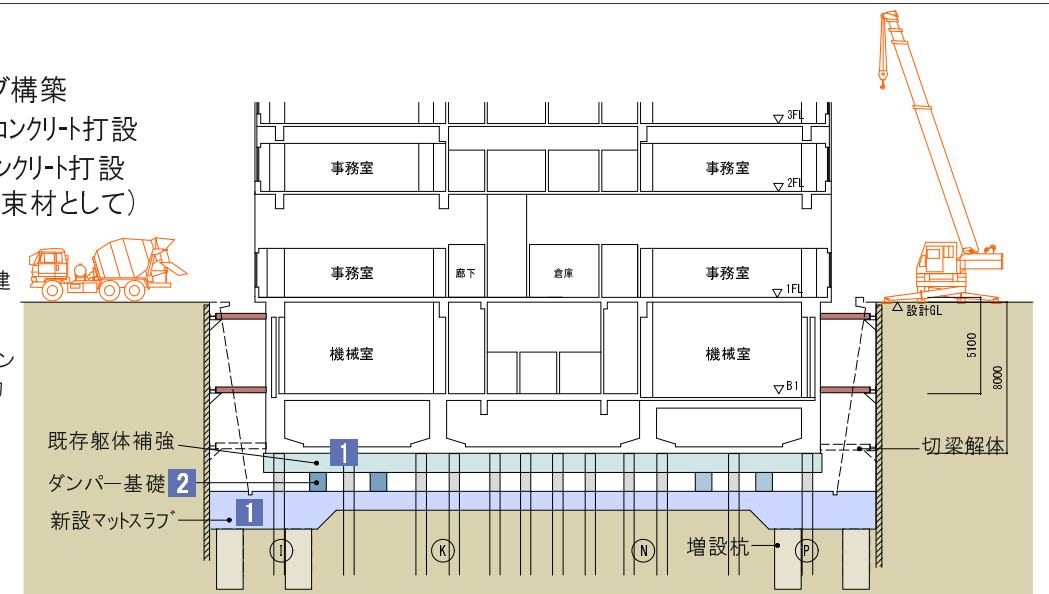
2 新設躯体重量増に対応する増し打ち杭の一部を、現状地盤から施工します。



STEP
4 新設マットスラブ構築
既存躯体補強コンクリート打設
ダンパー基礎コンクリート打設
(水平変位拘束材として)

1 新設の耐圧版を打設後、既存建物底盤を補強します。

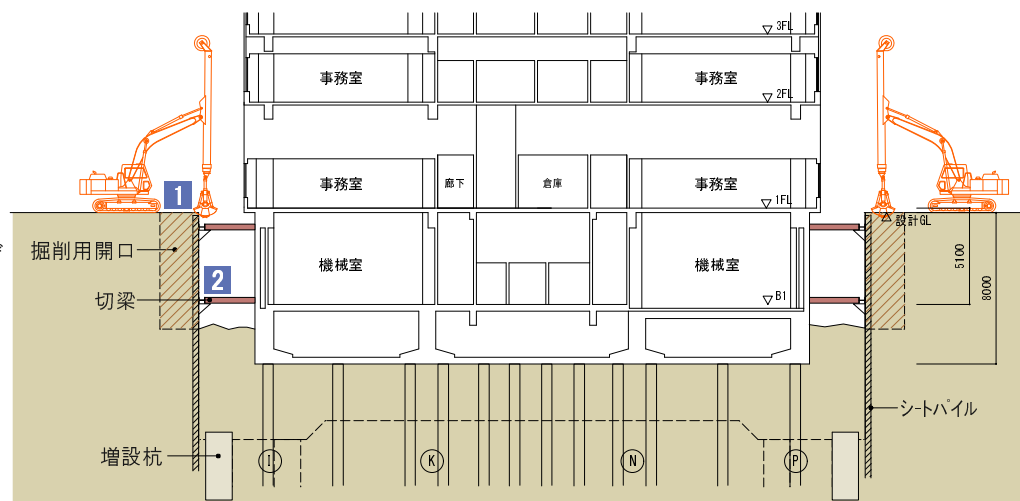
2 仮設水平拘束材とするため、ダンパー基礎コンクリートは上下建物間を繋げて打設します。



STEP
2 外周部掘削
切梁架設

1 外周部分の掘削を行います。

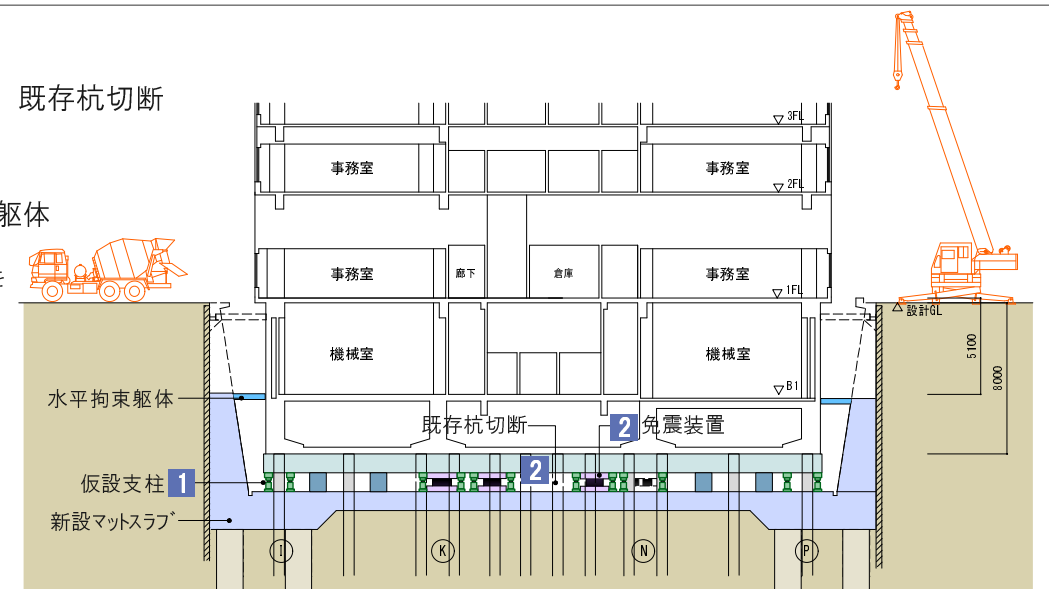
2 軟弱地盤対応として、切梁を3段設け、周辺地盤の変形を防ぎます。



STEP
5 仮設支柱組立 既存杭切断
免震装置取付
免震ピット躯体
外周水平拘束躯体

1 仮設支柱を設置し、建物荷重を仮受けします。

2 既存杭を切断し免震基礎構築・免震装置取付を行います。

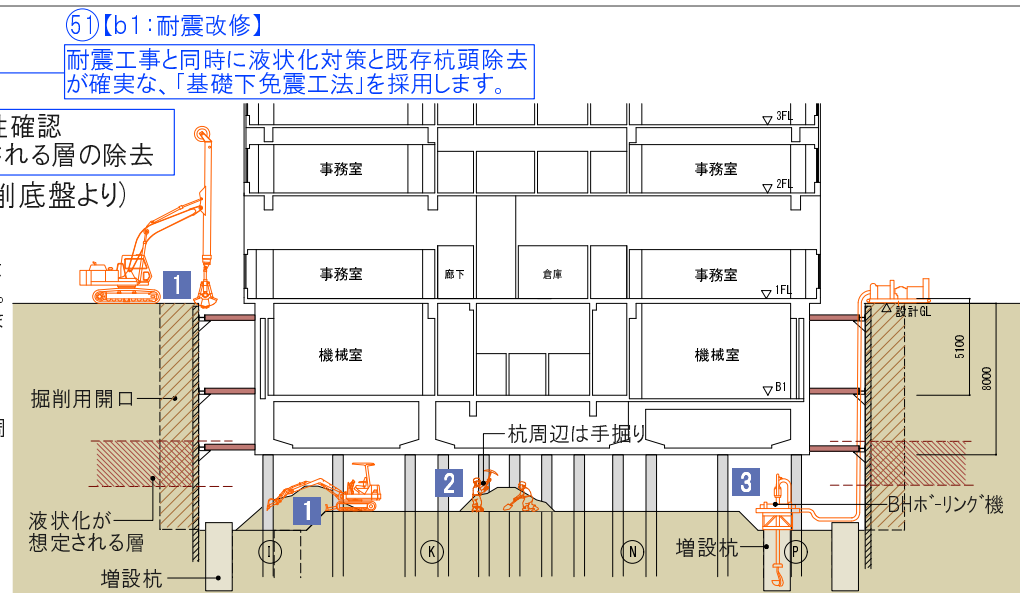


STEP
3 基礎下掘削
⑤【b1:耐震改修】
耐震工と同時に液状化対策と既存杭頭除去が確実な、「基礎下免震工法」を採用します。
・既存杭の健全性確認
・液状化が想定される層の除去
増設杭打設(掘削底盤より)

1 基礎下を掘削し、建物下の液状化が想定される層を撤去します。残土は掘削用開口から搬出します。

2 東日本大震災時に既存杭が損傷している懸念があるため、杭周辺の掘削は手掘りで行い、杭損傷の有無を全数確認します。

3 床付面からホーリング機を用いて増設杭を構築します。



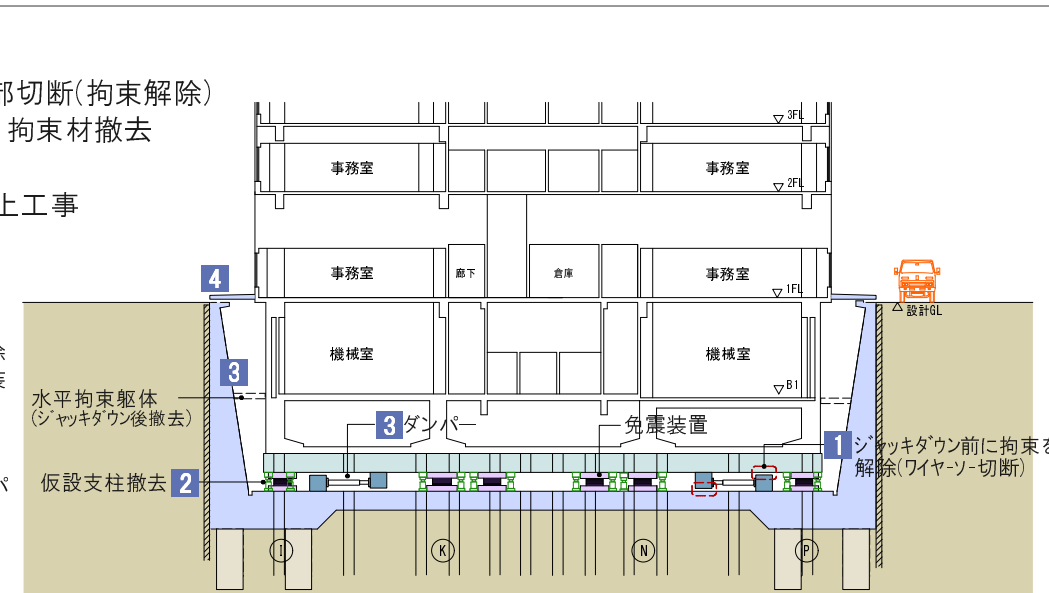
STEP
6 ダンパ・基礎一部切断(拘束解除)
ジャッキダウン 拘束材撤去
ダンパ・取付
Exp.J工事 仕上工事

1 ダンパー基礎の一部を切断し、拘束を解除します。

2 仮設支柱内のジャッキ油圧を徐々に開放し、建物重量を免震装置に移した(ジャッキダウン)後、仮設支柱を撤去します。

3 水平拘束材の撤去、油圧ダンパー取付けを行います。

4 免震Exp.J工事・ピット内外の仕上工事を行います。



⑤2【e7:工事中の機能維持】
現況調査の充実や市との計画的な協議・調整により、設計期間を短縮します。

⑤③【e7:工事中の機能維持】

設計時の監理技術者の関与による施工面でのノウハウ付加、本社技術部門の関与により設計品質の向上・後戻り防止を図ります。

基本設計完了時に概算積算を行い、「工事費が市の意向が設計内容に反映承認する期間を設けます。ズに移行する手順とし、後

⑤⑤【e7:工事中の機能維持】
国土交通大臣の指定性能評価機関による性能評価を4ヶ月、大臣認定2.5ヶ月、「建物の耐震改修の促進に関する法律」に基づく認定の取得期間を2ヶ月確保します。

⑤⑥【e7:工事中の機能維持】

浸水対策機器・防災関連機器の早期稼働、工事中の使用制限・仮移転期間短縮のため、部分的に工事を完了させ、順次お引渡しを実施します。

57【e7: 工事中の機能維持】

H29年6月に工事契約議会承認を得る設計工程、その後の工事期間を26ヶ月とすることで、事業完了期限より3ヶ月前倒しで事業を完了します。

